

サービス提供事業所の利用者主体の アセスメント

令和3年度サービス管理責任者・児童発達管理責任者
基礎研修B

株式会社ないがい

放課後等デイサービス ネクストハピネス 川村 信

この講義のねらい(到達目標)と内容

【ねらい・到達目標】

サービス提供を希望する、利用者や家族への理解を深めるための手法と視点を習得する。

【内容】

※講義形式とシンポジウム形式のハイブリッド

1. サービス提供における利用者を主体としたアセスメントの考え方やその手法についての講義
2. 障害種別や障害福祉サービスなど各分野における異なる視点についての講義

1 アセスメントの手法や考え方について



アセスメントは・・・

「支援の方向性・計画を作るための根拠として重要である。」

「支援現場においては、利用者との関わりを通じ、アセスメントは、常に連続・継続している。」

サービス提供の基本的姿勢

(サービス提供の基本姿勢) ① : 利用者中心の考え方

- 支援を必要とする人々は、種々のハンディによる困難を抱えているが、基本的にはそのサービスを主体的に利用し、問題解決できる能力を有している。(エンパワメントの視点)

と、サビ管・児発管が信じていることができますか...？



- 福祉サービスの提供では、利用者に代わって課題を解決するのではなく、提供できる制度やその他の社会資源を紹介しながら、利用者がそれらを主体的に活用して課題解決に取り組めるよう支援する。(エンパワメントを実践)

(サービス提供の基本姿勢) ②利用者のニーズの理解

1. 個別性・多様性がある

障がい者一人ひとりの考え方や価値観、障がいの内容や程度、年齢、家族介護の状況等の違いから利用者のニーズには個別性があり、多くの要因によって影響を受けている点で、多様性がある。

2. 幅がある

在宅等での生活を支援する視点と共に、利用者の地域における社会参加や自己実現、成長発達を支える視点も必要である。

3. 変化し発展する

ニーズは固定的なものではなく、利用者の状態の変化や成長、発達等、多様な要因の影響を受けつつ、継続的に変化し発展する。

(サービス提供の基本姿勢) ③事業所で提供するサービスの理解

<サービスの特徴>

1. 社会的支援策の一環である

利用者のニーズに対応するため、支援目標を設定し、支援計画を策定した上で、チームにより支援に取り組む。そしてP.D.C.A (Plan・Do・Check・Action) のプロセスに基づき提供される社会的支援策の一環である。

2. 個別性が高く多様性のある支援

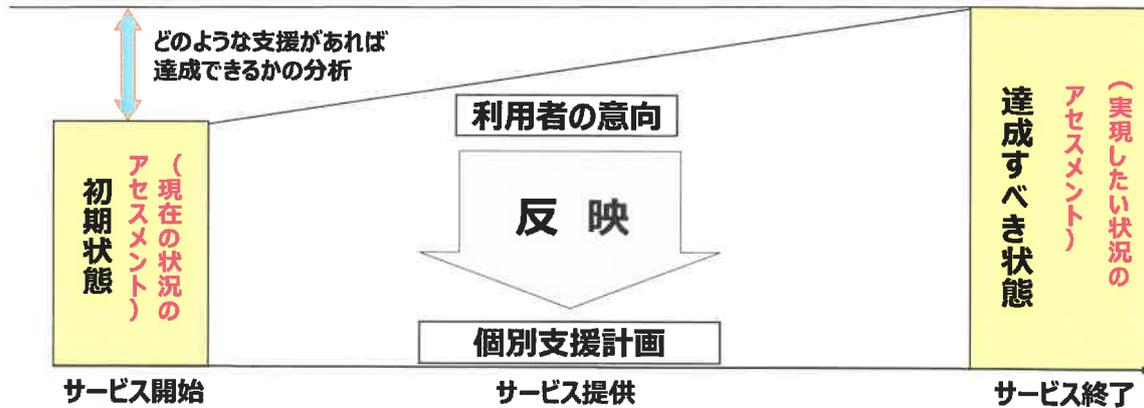
利用者一人ひとりの心身の状況(障がい等)、ニーズ、思い、家族関係、社会活動への参加意欲、人間関係での価値観等に十分配慮した個別性が高く多様性のある支援である。

3. ライフステージ、社会活動参加との関連が強い支援

利用者の価値観、人間性、社会的活動の内容等に直接触れる部分が多く、人間的な共感や信頼感、守秘義務等に特に配慮したサービスであり、専門職としての自覚に立った態度が求められる。

(サービス提供の基本姿勢) ④ : 達成すべき状態の明確化

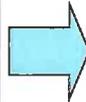
サービス管理責任者の役割・・・ニーズに基づいて利用者の望みを実現



～アセスメント力を高めるため
サービス提供の視点～

(1) 小さな変化に気づく観察力を

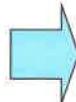
今までは…
利用者は日々変化しているにもかかわらず、**利用者の健康面での変化や本人の持っている力を見逃すことはなかったか？**



利用者の状態は常に変化しており、**生活全般において小さな変化も見逃さない観察力**を養う力を支援者が持つこと大事である。

(2) 利用者の能力を伸ばす支援

今までは…
本人が行う行為に時間がかかるため、職員が待つことができず、**つい「やってあげる」支援になってしまいがち**であり、その結果、能力の低下や依存心が高まり、本人の自立を妨げることになっていなかったか？



利用者の**「能力」を把握し、それを活かす環境**をつくり、その中で**「更に可能性が広がるよう」支援する。**

(3) 利用者個々に応じた活動を創る

今までは…

介護中心の支援に追われ、生産的活動、文化的活動、趣味的活動など、利用者の**生き甲斐を実現する活動は軽視**されていなかったか？



生産的活動、文化的活動、趣味的活動など、一人ひとりが**生きがいを感じられるような活動を創造し**、利用者の思いを実現していく。

(4) 利用者のニーズに応じて次の生活を目指す

今までは…

障がいの重さ故に、家族や関係者さえも、支援開始当初から**地域生活への移行は困難であるとあきらめていなかったか？**



利用者のニーズに応じ、生活介護から就労継続支援、施設入所支援からグループホームなど、**地域生活への移行にチャレンジ**する。また、利用者への動機付けや、家族や関係者の理解と協力を求め、移行先の見学や体験など**支援のあり方を工夫**する。

アセスメント力(観察力)を高めるために理解すること
人間が取る行動のほとんどには、理由がある！

行 動



背景



きっかけ



原因

何か良いことがあった
何か悪いことがあった

行動を起こす背景（理由）は？

- 誰かに見て欲しい・そばに来て欲しい・声をかけて欲しい。⇒ 注目されたい。
- 好きな物を手に入れたい・興味のある活動をやりたい。⇒ プラスの欲求。
- 苦手なことはやりたくない・嫌いなことを避けたい。⇒ マイナスの欲求・回避行動。
- これをやると気持ちがいい。⇒ プラスの体験。など

行動が起きない・停止してしまう背景（理由）があるのか？

- 何をするのかわからない。
- 求められていることが難しくてできない。
- それをやってもいいことがない。
- やらなくても困ったことにならない。など

参考

観察力を高めるために

何色？



①

何色？



③

②

SEVEN&i HOLDINGS

何色？



④

何色？



参考

観察力を高めるために

三色の色彩は、
「朝焼け」のオレンジ
「夕焼け」のレッド
「オアシス」のグリーン
を表現し、朝から夜までお客様
のオアシスでありたいと
いう思いをこめています。



セブンオレンジ
プロセス C:0 M:60 Y:100 K:0

セブングリーン
プロセス C:100 M:0 Y:100 K:0

セブンレッド
プロセス C:0 M:100 Y:100 K:0



アセスメントのポイント

個別支援計画で自己決定を支援する

- 自己決定や自己選択の力が、様々な理由で弱っている人たちへの支援方法である。
- 多くの可能性や選択肢を広げ、自己決定しやすい環境も合わせて作っていく。
- パターナリズムに陥らないよう、一人の価値判断ではなく、複数の担当者や複数の専門職が多面的にニーズを捉える支援方法である。

(※パターナリズム：強い立場にある者が、弱い立場にある者の利益になるようにと、本人の意志に反して行動に介入・干渉することをいう。日本語では**家父長主義**、**父権主義**、**温情主義**などと訳される。)

- 権利侵害を受けやすい環境に居る人達への支援のスタンスを明らかにする。

アセスメント～支援の見立て力を高める

- ①アセスメントの過程は資料の収集と分析である。
- ②支援の実践では、アセスメントは常に継続・連続している。
- ③アセスメントで大事なものは、利用者をどのように診ているか。
- ④利用者との関わりの中で、気づくこと・発見することである。

相互理解
の場

支援員の利用者に対するみかた
利用者の主訴を十分に傾聴する

医師、教員、
心理判定員等の専門家
からの情報入手



利用者の生活歴、家族状況、
直面している課題に対する対応、
課題がもたらす不安や葛藤

専門家に依頼するときは
利用者の了解を得る

アセスメントの視点の切り替え

(支援者のアセスメントの視点)

○リフレーミング

- ・視点をを変える。見方を変える。頭を切り替える

○ストレングス

- ・課題ではなく、可能性・強みを見る・見つける・本来持っている力を探す。



(個別支援計画)

- ・アセスメントを具体的なプランにしたもの
- ・アセスメントの集大成 = ニーズへのお手伝い
- ・本人の希望、夢、目標に添った計画の作成

アセスメントの留意点① ～基本的な考え方～

- ADL・IADL・課題行動に関して能力評価(できない事探し)に陥らない。
- 安全性ばかりに着目した、リスクマネジメントにならないようにする。
- 能力評価等は、決して間違ったアセスメントではないが、これからは、アセスメントの視点を切り替えることが求められる。
- 自立性も考慮した、ストレングス（利用者の強み）を常に意識する。
- 利用者の自主性が向上するよう、自己決定・自己選択を基本とする。
- 標準化されたサービスは事業所マニュアル等で示し、個別化されたサービスは支援計画で示す。

アセスメントの留意点② ～意思決定支援への配慮～

- 意思のない人はいない。
- 障がいの重い人でも、必ず『意思』はあり、考えや気持ちを持ち自分で決める事が出来る。
- これらが大前提にして支援する必要があり、それぞれ違う形で表現・表出する意思決定のどの部分を、どう支援していくのかを模索していく事が大切である。

例えば・・・重度の障害のある方のニーズのとらえかた

【どんなに重度の障害者でも、本人のニーズはある・・・と言う前提】

<ポイント>

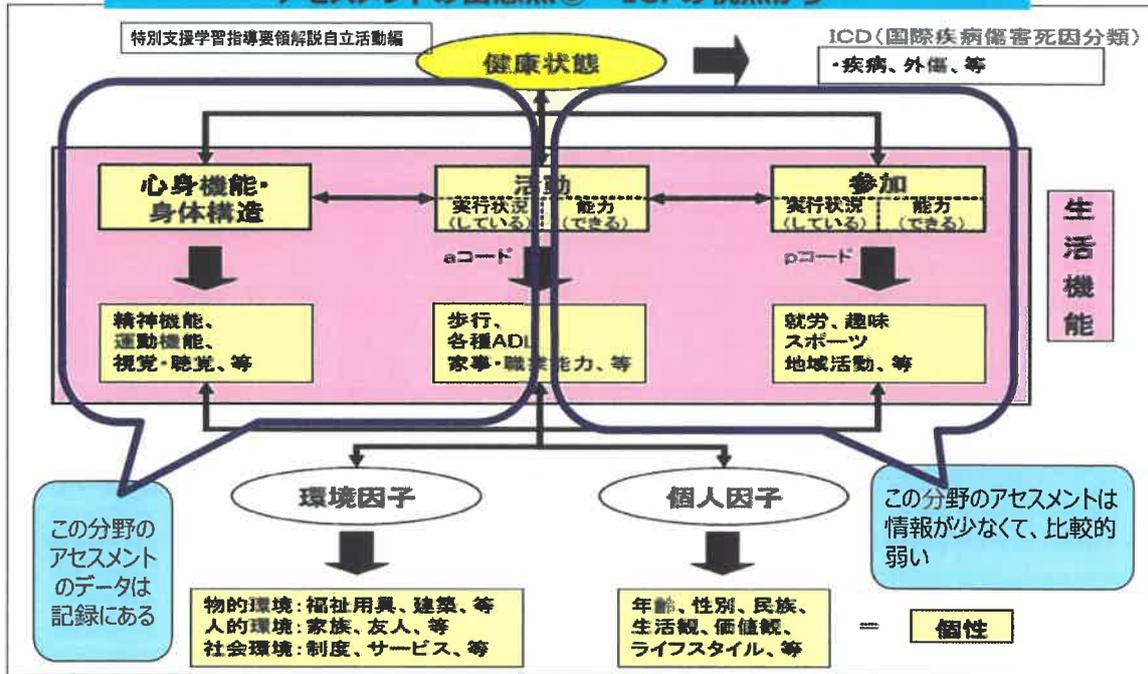
☆意思疎通の取り方についての確認。

- ①. 言語的なコミュニケーション
- ②. 本人の独特なコミュニケーション
- ③. 非言語的なコミュニケーション → 表情・行動など・・・

☆支援者が、利用者の訴えを汲み取れるか否かがニーズ把握の分かれ道。

☆気づきが大切！

アセスメントの留意点③～ICFの視点から～



本人を知るための地図の必要性（アセスメントツール）

☆利用者の状態像の明確化・見える化を行うためのツールである。

○この部分は支援者の頭の中で暗算していた。

○アセスメントの過程は資料の収集と分析するためのツールである。

○本人を知るための地図は「アセスメント」の一つである。

・本人に関わる様々な聞き取った情報（相談支援記録・アセスメント表等）がトータルな本人情報として活用されることが少ない。

・本人の状態像等のアセスメントがないまま、計画策定に至ることが多い。

・本人の目線で様々な情報を項目ごとに地図に整理、確認することで「支援者側の思い込み、間違った利用者像」を作ることの予防できる。

ニーズ整理表の必要性（アセスメントツール）

☆明確になった本人の状態・希望・ニーズに対し、どのような支援が必要かを整理するためのツールである。

○この部分も支援者の頭の中で暗算していた。

○本人を知る地図など、様々な情報を整理した結果明らかになった「本人のニーズ・想い・願い」に対し、それに寄り添うための「支援の根拠」をこのツールを使って整理する。

○個別支援計画の根拠となるのがニーズ整理表。

参考

ツールを使ってニーズを整理する。本人を知るための地図

(1) 現在状況の整理 (アセスメント情報を整理)

① 私は、今までこんな生活、生き方をしてきました。

② 私は今このような環境で生活をしています。してきました。

③ 私の不安・気にしていることは？

④ 私自身が持っている力、得意なこと

(2) 今、必要と思われる支援

⑤ 私は、〇〇で暮らしたいです。私の今の願い、希望は〇〇です。今、私は〇〇をやりたいです。

(3) 将来の暮らしに向けた支援

⑥ 私の将来の夢、希望は〇〇です。私は〇年後こんな暮らしをしたいです。ポイント

大事な視点は「I・アイ」

参考

ニーズ整理表

利用者名

さん

〇〇さんの願い・希望など

・私は、働く訓練をして、一般企業で仕事をしたい。

〇〇さんのストレンクス

- ・働く意欲はある。
- ・就労に向けた力もある。
- ・自宅に住んでいる。
- ・家族の理解もある。

本人の 願い・希望	現在状況の確認 (本人のストレンクス)	願い・希望に応えるために 必要なこと	願い・希望を満たすための目標
①働く訓練をしたい ②企業で仕事をしたい	・働くことの力は 十分ある。 ・本人の意欲もある。	①生活リズム(規則正しい生活 が継続)を作ろう。	①仕事につくため、毎日通所が出来るよう になろう。
		②通所先を含め、どんな仕事を 希望しているか支援スタッフと 考える。	②どのような仕事に適しているかを探る。

アセスメントの視点を変えてみよう

- 「課題・機能面中心＝障害の原因・本人の課題・ダメージモデル(できないこと探し) 医学モデル」のアセスメントから
- ☆「生活を送る上で全般的なニーズ・その人が本来持っている力に着目」した支援の組み立てを行う。(社会モデル)
- ・そのために・・・その人らしい生活や本来持っている力が発揮できない生活を送る上での障害因子を取り除く支援。
- ・したがって・・・生活全般の質向上に向けた支援に向けた180度の支援の視点の転換が求められる。



- ・利用者の今の姿の分析と、将来の姿を想定した支援の組み立てを行う。
⇒したがってADLや課題は、その人の姿を知る上では、一部分である。
- ・事業所で、共通・標準化できるADL等の介護は、標準マニュアル化する。

(障害が重い方々は…)

- ・生き方や暮らし方のイメージをもって、プランを自分で決めて自分で実行することって…？
- ・本人なりの力は持っているが、体験・経験の場面・刺激が少なく、もしくは、障害・疾病により本人の力が弱くなってる可能性が高いかも。(パワレスな状態)。
- ・生活介護・療養介護を利用している方々は、具体的に希望や夢を上手く示せる人は少ないかも。



(支援者が持っていたい視点)

- ☆従来持つてる力や可能性を引き出すアセスメント力が大事
- ☆このような状況の人たちに対して、行き方や暮らし方のお手伝い(支援)をするのが我々の専門的な仕事ではないだろうか。
- ☆究極は利用者が「より良い生き方・暮らし方をするための支援を形にしたもの」が個別支援計画ではないだろうか。

まとめ

- 聴き取りだけがアセスメントではない。
- アセスメントは一人一人に合わせた形、スタイルで。
- アセスメントは目的ではなく手段である。
- アセスメント後、どのように計画や支援に反映させるかが大切。
- 変更や修正をいとわない。

ご清聴ありがとうございました

